

研究区分	学部研究推進
------	--------

研究テーマ	地域住民と地域の看護職との交流を生かした看護基礎教育の推進				
研究組織	代 表 者	所属・職名	看護学部・教授	氏名	富安 眞理
	研究協力者	所属・職名	看護学部・教授	氏名	山下 早苗
		所属・職名	看護学部・教授	氏名	竹熊カツマタ 麻子
		所属・職名	看護学部・教授	氏名	篁 宗一
		所属・職名	看護学部・教授	氏名	荒井 孝子
		所属・職名	看護学部・教授	氏名	太田 尚子
		所属・職名	看護学部・教授	氏名	畑中 純子
		所属・職名	看護学部・教授	氏名	林 みよ子
		所属・職名	看護学部・教授	氏名	藤田 景子
		所属・職名	看護学部・教授	氏名	操 華子
		所属・職名	看護学部・教授	氏名	山田 紋子
		所属・職名	看護学部・准教授	氏名	加藤 京里
		所属・職名	看護学部・准教授	氏名	鈴木 千智
		所属・職名	看護学部・准教授	氏名	鈴木 和香子
		所属・職名	看護学部・准教授	氏名	中川 有加
		所属・職名	看護学部・准教授	氏名	永谷 実穂
		所属・職名	看護学部・講師	氏名	福島 恭子
		所属・職名	看護学部・講師	氏名	野津 美香子
		所属・職名	看護学部・講師	氏名	根岸 まゆみ
	発表者	所属・職名	看護学部・教授	氏名	富安 眞理

講演題目
地域住民と地域の看護職との交流を生かした看護基礎教育の推進
研究の目的、成果及び今後の展望
【目的】本研究は看護職（保健師・助産師・看護師）養成教育に地域住民との交流を活かす方策を探ることが目的である。 【成果】 1. 本年度は、対面及びハイブリッド形式の授業・演習・実習において地域との交流プログラムを実施した。看護学部4年生を対象とした卒業時到達度に関する質問紙調査から、本プログラムを通じて、看護学生が卒業時にディプロマポリシーに示す能力・資質を修得していることが示された。 2. 本年度も看護学部・研究科特設サイトを活用した広報活動を継続して行った。 3. 地域の看護職者（卒業生）の交流の一環として、助産師のオンライン同窓会を8月に実施した。 4. 第112回 保健師 合格者66人(合格率98.5%)、第109回 助産師 合格者6人(合格率99.8%)、第115回 看護師 合格者122人(合格率98.4%)であり全国の新卒者合格率を上回った。 【今後の展望】 平成26～30年度に実施されたCOC事業によって、地域住民との交流から学生が学ぶプロジェクトの充実が図られてきた。令和2年度看護実践教育研究センターが、看護に係る実践と教育と研究について地域への発信拠点として開設された。令和3年度より開始された看護師特定行為研修は、5年目を迎え、地域の看護職を対象とした看護継続教育の拠点としてその機能・役割を発揮している。今後も、授業・演習・実習において、地域住民や看護職者との交流を活かした問題解決学習、シミュレーション学習、体験学習、チームワーク演習等のアクティブラーニングの手法を取り入れた看護基礎教育の推進を特色として本プロジェクトを継続する。